

# 親の立場から：父親の立場から

## From the Parents' Perspective: the Father

十文字 雅積 JUUMONJI, Masakazu

これまでに聞きした講演内容に対する話をさせていただく前に、家族を含めた簡単な自己紹介をさせていただきます。私は1986年に武蔵野市にある電機メーカーに入社し、現在、新規ビジネスのマーケティング業務に従事しており、妻とともに共働きをしております。子供は2人の娘がおり、上の子は小学校1年生の6才、下の子は保育園に通う3才です。以上、現在4人家族で三鷹に住んでおります。

それでは父親の立場から、これまでに聞きした講演内容に対する話をさせていただくとともに、家庭教育の大切さについての個人的な考えを述べさせていただきます。すべての講演に対して興味深く聞かせていただきましたが、そのなかでも「育児不安・虐待」に関する講演に興味深く聞かせていただきました。そして、私自身もなぜこのようなことが起こるのか考えてみました。皆さんも、記憶に新しい神奈川県大和市で起こった無認可ベビーホテルでのせっかん死事件ですが、この経営者がベビーホテルを始めたのは、病気がちな母親を抱え、働きながら長男の面倒を見ることができたためだったとのことです。しかし、資格も経験も無いまま、経営はたちまち行き詰まり、そのストレスの発散の先が、幼児虐待に向かったと見られています。この事件で長男を失った母親は、「時間の融通が利いたので預けた」とのことでした。この事件を、経営者の資質、お粗末さと簡単に片付けてしまえば、それまでですが、失礼な言い方になるかもしれませんが、もし時間の融通が利く、良質の保育所が増設され充実していたら、長男を

失った母親は良質の別の保育園に預けていたのではないのでしょうか。この事件の背景には、要因の一つとして保育所整備の遅れも挙げられるのではないかと考えます。そういった意味で、様々な障害はあるものの、良質の保育園が増設できないのであれば、このような事件を今後、無くすためにも、早急に保育サービスをチェックする機能が必須ではないかと考えます。

また、別の事件のケースですが、両親が子供を虐待し、死なせてしまう事件も新聞やニュース等で最近よく見受けられます。全てではありませんが、これは子供が問題を起こすことに対して、更生させることができず、そのストレスが虐待の行為となり、死なせてしまったケースです。いつ自分の家族におこるかもわからないので、偉そうなことは言えませんが、今後、自分としてもどのように子供と接するべきなのかといった観点も含めて考えると、幼稚園・保育園での教育だけでなく、家庭における教育、すなわち父親として、またある時は友達として子供と同じ立場に立って、目線を合わせ一緒に苦しみ、考え、話し合うことが日頃からできていたのであれば、この事件は未然に防げていたのでは・・・、と強く感じました。また、その必要性を痛感しました。

ここで、つい最近の我が家のささいな出来事を紹介します。新装開店した百貨店へ、娘2人と買い物に行こうと約束し、3人で出かけました。下の子は、私の自転車に乗せ、上の子は、自分の自転車で出かけました。上の子は、自転車の乗り方について、ある程度、身につけていると思ってい

ました。しかし、信号の渡り方、狭い歩道で向こうから人が来た時の道の譲り合い、スピードの出し過ぎが危険なこと等、自分も一緒に自転車に乗ることで、それらの危険をあらためて身をもって感じました。

また、おもちゃ売り場に行った時のことです。おもちゃ売り場の一角にゲームコーナーがあり、初めて行ったところでもあったので物珍しかったのでしょう。下の子は、私が追い駆けるのが大変なくらい、至る所へ、人ごみをぬうように探索していました。ある乗り物のところに行った時、他の人が並んでいるのに気づかずに、誰も乗っていませんでしたので、スーッと乗ってしまいました。さすがにまわりからは白い目で見られましたが、本人を捕まえ、「ほら、みんなが並んでいるよ、乗る時は順番だよ」と言って降ろしたら、乗りたいのをこらえ、自分がいけないことをしたと理解してか、だだもこねずに私の言葉を受け入れました。すると次は、子供用のテレビゲームの前に行って、順番を待っています。やりたいのを必死にこらえ、「ちゃんと順番を守っているよ」とでも言いたそうに並んでいました。このような些細なことではありますが、社会環境の中で、良い事と悪い事の区別を理解し、ひとつずつ、免疫になっていけばいいのかなと感じています。

幼稚園・保育園には、安心して預けられ、集団生活の楽しさを存分に味わえる場の充実を図っていただくことを期待します。また、家庭教育とバランス良く機能することが、非常に大切だと感じます。

最後になりますが、今回、この場に参加させていただき、貴重な講演を聞くことができ、子育てについて真剣に考える場を提供していただき、非常に感謝しております。ありがとうございました。これからは、子供と一緒に目線を合わせ、共に考え、話し合う場を少しでも多く設けたいと思います。ご静聴ありがとうございました。